

人材育成奨学計画：2024 年度付加価値研修で講義をしました

北海道開発局では、独立行政法人国際協力機構（JICA）と連携し、将来当該国の指導者相当となることを期待され、日本の大学院に留学している優秀な若手行政官等に対して講義を行いました。

帰国後は、社会・経済開発計画の立案・実施において留学中に得た専門知識を有する人材として活躍すること、またひいては日本の良き理解者として両国友好関係の基盤の拡大と強化に貢献することを目的としています。

■ 研修内容：人材育成奨学計画：2024 年度付加価値研修

■ 研修期間：2024年（令和6年）9月2日及び9月4日

■ 参 加 者：日本の大学院に在籍する留学生（研修生）

エルサルバドル7名、ガーナ7名、ネパール21名 計35名

■ 研修概要

1 講義の様子

当局は9月2日に国際室大西専門官が「北海道の歴史と北海道総合開発計画」について、9月4日に道路計画課松本道路調査官が「道の駅の概要」について講義を行いました。

国際室の講義では、「農地や道路開発の歴史について詳しく知りたい」、「共創の具体例を教えてほしい」等の質問があり、講義後半のディスカッションでは、国ごとに「自国の歴史と比較して感じた事」、「地域計画を策定・実行することの重要性」について話し合い、講義内容の理解を深めていました。

「道の駅の概要」の講義では、研修生にとって「道の駅」はユニークな制度として映ったようで、「登録制度や設置の際に必要な設備は何か」、「沿線地域にはどのような恩恵があるか」等、自国での設置をイメージした具体的な質問が講義後も続きました。



講義の様子①



講義の様子②

2 視察

「道の駅の概要」の講義後、研修生は道の駅ウトナイ湖を視察。

多くの研修生は道の駅を訪れるのが初めてで、トイレの清潔さやお土産品の充実ぶりに感心していました。

続いてウポポイを訪問。アイヌ民族に関する講義では、クイズを交えながらアイヌの世界観や精神文化の理解等、文化的多様性の実現をめざす取組について学びました。研修生にとって自国における先住民の歴史や文化を啓発するうえで大変参考になったようです。

その後、時間の許す限り博物館を視察し、苫小牧港からフェリーで帰路につきました。



道の駅ウトナイ湖



ウポポイでのセミナー